海上の方 2019/9/1

右舷灯

国境の島「対馬」再訪

この夏、久しぶりに対馬を訪れた。九州と韓国の間に広がる玄界灘に浮かぶ対馬島は、韓国と国境を接する離島で、ツシマヤマネコの生息地としても有名な自然あふれる島だ。南北に80㎞近く伸びており、その北端から釜山までは50㎞余りで、展望台からは釜山の町が遠望できる。

博多港からフェリーとジェットフォイルが毎日就航しており、福岡と長崎空港からの航空便もある。海路と空路の利用客は各20万人程で、この10余年間、海路客の数はほぼ一定だが、空路客は漸減状態が続いている。減少する国内観光客とは対照的に急増しているのが、釜山から高速船でやってくる韓国人観光客で、昨年は40万人に達して、国内旅行客と肩を並べた。

しかし最近、韓国人観光客の数が日韓の政治的衝突の影響で激減しているという。対馬の最北端に近い比田勝港を訪問すると、港内には5隻の高速旅客船が停泊していた。いずれも釜山からの船で、10時頃に入港して、夕方出港する。釜山までの航海時間は1時間余りと短い。国際旅客船ターミナルの案内所で聞くと、以前は各船ともに満船状態で、1日2往復する船もあったが、今は各船共に1便で、旅客数はだいぶ減っているとのこと。それでも港の近くのレストランや喫茶店は家族連れの韓国人観光客で賑わっていた。

釜山で対馬への旅行が人気の理由は、最も近い海外であるのと、大都会の釜山とは対照的な豊かな自然にあるようだ。総面積の90%を占める山林、複雑に入り組むリアス式海岸など、島内には絶景が続く。

ちょうど訪問したのは、対馬の中心である厳原の港まつりの日で、朝鮮通信使を再現した行列が街を練り歩いていた。この行列には、毎年、韓国からもたくさんの参加者がやってくるが、今年は釜山市長が派遣をしぶったが、釜山の大学の元学長らの知識人が説得して参加が実現したという。

対馬は人口減少に直面していて、この50年で半減して今は約3万人。島の活性化には交流人口を増やすことが必須で、長年の努力で40万人規模の国際交流にまで達したが、それが政治問題の影響で危機に瀕している。

（池田良穂）